

平成23年度外国語活動にかかわる現状と課題

部長 杉山節子

1 外国語活動の動向

今年度より小学校における外国語活動が全面的に実施されたことを受けて、県内では、外国語活動のねらいである子どもたちの「コミュニケーション能力」の育成を目指す実践が様々な形で行われると共に、評価の在り方や中学校の英語学習との関わりを探る研究が進められた。その概要を以下に紹介する。

まず各自治体の教育研究会では、教育委員会や関係大学の研究者と連携して公開授業とその検討を核とする研究会を実施した。長岡市では三島中学校区の小学校、三条市では四日町小学校（田代エリ教諭）、柏崎市では剣野小学校、新発田市では二葉小学校（渡邊晃教諭）、加茂市では石川小学校、燕市では分水小学校・燕西小学校、五泉市では五泉小学校（佐藤諒子教諭）、上越市では大手町小学校（茂木淳子教諭）、佐渡市では両津小学校（藤田優太教諭）、魚沼市では広神西小学校、南魚沼市では上関小学校・五十沢小学校・大崎小学校、胎内市では築地小学校（竹内敦子教諭）・中条中学校（古川良教諭・坂井美喜教諭・大月祐教諭）、阿賀町では三川小学校（田中昭洋教諭）、新潟市では太夫浜小学校（坂井邦晃教諭）・南万代小学校（矢部直美教諭）・新飯田小（永井仁司教諭）でそれぞれ公開授業が行われ、外国語活動のねらいに対応した授業の在り方や評価、さらには小・中学校間の連携について検討が行われた。またこれらの公開授業のほか、ワークショップや講師を招いての講演会を通して、外国語活動の実践研究が進められた。

さらに県小研では、今年度より三ヵ年度にわたり新潟市立湊小学校を外国語活動の研究指定校として、外国語活動の評価や中学校区を単位とする小・中連携のあるべき姿を探る研究を進めており、12月5日に第一年次の公開研究会を行った。

2 外国語活動の課題

今年度の研究を通して、「外国語活動」の実践上の留意点として（1）育てたい子ども像を明確にして活動を行うこと、（2）読み書きする能力の育成が目的ではないことを授業者が強く意識して臨むこと、（3）子どもたちの実態を考慮しながら適切な教材を選択すること、（5）ALTと授業者とが互いの役割分担を明確にすることで、学級担任の不安を解消することが重要であることが明らかとなった。

また評価については、外国語活動はコミュニケーション活動を通して日本と外国の言語や文化について体験的に理解を深めたり、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成したりすることがねらいとなることから、ともすると子どもたちが楽しく活動していればよいという観点からの評価に陥りやすいので、活動の目標と内容を基に評価の観点を明確にする必要がある。

これらの課題を解決し、外国語活動のあるべき姿を目指して、研究を進めたい。